

要 旨

試験委託者

環境庁

表 題ラウリン酸のオオミジンコ (*Daphnia magna*)に対する繁殖阻害試験試験番号

NMMP/E99/3150

試験方法

本試験は、OECD 化学品テストガイドライン No.211「オオミジンコ繁殖試験」(1998年)に準拠して実施した。

- 1) 被験物質 : ラウリン酸
- 2) 暴露方法 : 半止水式(1回/日、試験液の全量を交換)
- 3) 供試生物 : オオミジンコ (*Daphnia magna*)
- 4) 暴露期間 : 21 日間
- 5) 試験濃度 : 対照区、助剤対照区、0.16mg/L、0.29mg/L、0.51mg/L、0.93mg/L、1.67mg/L および3.00mg/L(設定濃度)
(公比1.8、助剤 HCO-50、60mg/L)
- 6) 試験液量 : 1容器(連)につき 80 mL
- 7) 連数 : 10 容器(連)/濃度区
- 8) 供試生物数 : 10 頭/濃度区(1連につき 1 頭)
- 9) 試験水温 : 20±1℃
- 10) 照明 : 室内光、16 時間明/8 時間暗
- 11) 被験物質の分析 : GC分析

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

実測濃度が設定濃度の±20%を外れたので結果の算出には実測濃度の時間加重平均値を用いた。

2) 21 日間の親ミジンコの半数 致死濃度 (LC50)

= 0.58mg/L (95%信頼区間 : 0.02mg/L~0.90mg/L)

3) 21 日間の 50% 繁殖阻害濃度 (ErC50)

= 0.44mg/L (95%信頼区間 : 0.38mg/L~0.47mg/L)

4) 21 日間の最大無作用濃度 (NOECr) = 0.47mg/L

5) 21 日間の最小作用濃度 (LOECr) = 0.65mg/L

(上記濃度は、実測濃度の時間加重平均値に基づく値)